

ペガサス分団活動『準絶滅危惧種シロバナサクラタデが咲く湿地と鎌倉武士 畠山重忠の道場館が築かれた自然堤防で秋の自然観察をしよう！』

令和4年9月25日（日）
さいたま支部ペガサス分団

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』に登場する畠山重忠は、嵐山町に本拠を置く有力御家人です。さいたま市桜区の道場には、畠山重忠の所領地があったといわれています。重忠はここで地中に観音像を発見し金剛寺を建立し道場などの建物を造ったことから、この地が「道場」と呼ばれるようになったといわれています。道場の地は古入間川の自然堤防上にあり、周囲の低地には水田が広がる豊かな地であったと考えられます。また、北に向かうと鎌倉街道「羽根倉道」、東に向かうと「日向鎌倉道」があり、古入間川の水運とともに交通上も便利な地であったようです。重忠はこの所領に館を築き、この地を治めたといわれています。数十年前までは堀跡も見られたようですが、開発が進み今は遺構はみられません。自然堤防という地形が湿地に守られた館の存在との関係を、物語ってくれています。

道場館のある自然堤防は周囲の湿地に比べると1m高くなっています。古入間川が運んできた土砂が堆積したものです。わずか1mですがある程度の洪水からは建物を守ることができます。また、地震の時は、湿地よりは地盤がしっかりしているため揺れが小さくなります。土中の湿気も少ないので感染症も少なくなります。生き物も湿地よりは水分が少ないところを好む種類が多く、湿地では少ない樹木が多く見られます。

道場館を取り囲む湿地は、開発が進んだ今も水田などの豊かな環境が残っています。そこには埼玉県準絶滅危惧種のシロバナサクラタデも見ることができます。初秋にスズランのような白くて半開きの小さな花を下向きに咲かせるタデの仲間です。水田には他にも多くの生き物が集まってきます。ギンヤンマなどの昆虫やダイサギなどの鳥もいます。ジャンボタニシなどの困った外来種も見られます。

今回は桜区道場の低地を巡り、湿地や自然堤防での自然観察、その地形を生かした畠山重忠など昔の人たちの生活の跡を訪ねてみたいと思います。

- 1 期日 令和4年9月25日（日）
☂ 荒天、交通事情の混乱の時は中止します。
- 2 集合 プラザウエスト（さいたま市桜区役所・桜図書館）駐車場側の入口付近
午前9時30分
- 3 解散 プラザウエスト 午前12時30分頃
- 4 自然観察ウォーキング 全行程約2km
プラザウエスト→鴨川堤桜通公園→道場館跡→金剛寺→プラザウエスト
※天候などにより、当日になって行程を変えることもあります。
- 5 持ち物
雨具、飲み物、セロハンテープ、持っていれば双眼鏡、マスク
- 6 その他
 - ・ペガサス分団活動は参加人数を把握して資料を用意する関係上、事前の申し込みをお願いします。
 - ・小学4年生以下の児童には、保護者の方の付き添いをお願いいたします。
 - ・途中で先に帰る場合は年齢にかかわらず保護者の方の付き添いをお願いいたします。
 - ・団体行動です。1人で行動してはいけません。用事があるときはリーダーと一緒に行ってもらいましょう。
 - ・危険なもの、まわりに迷惑をかけやすい物（刃物、ライター、モデルガンなど）は、持ってこない。
 - ・天候、交通事情、団員の健康状態等で予定を変更することもあります。